

成果報告書

I. 研究概要

氏名	森田 笑
所属	シンガポール国立大学
招聘回（招聘研究期間）	2014年4月1日～9月30日
招聘研究テーマ	地域研究としての日本研究の ための日本語学とは何か
研究目的	外国語としての日本語を教室で習った学生が、更に深く日本語を理解するには、社会言語学、語用論、談話分析、会話分析などのアプローチが必須だが、そのような文献は理論の検証に重点がおかれ、専門性が高く、また日本語学に関しては、特に英語で書かれた文献は日本語で書かれたものより圧倒的に数が少ない。日本語を通して日本社会を理解することを目的とした地域研究としての日本語学では、どのようなアプローチで、どのような内容を教えるべきか。それを探ることが本プロジェクトである。
研究概要：	<p>研究は次のように行われた</p> <ul style="list-style-type: none">日本語学を外国人学生に現在教えている大学で担当している先生方へのインタビュー（お茶の水女子大学、筑波大学、大阪大学、UCLA、ハワイ大学、イリノイ大学、エセックス大学）日本語教師／留学生に対してニーズ調査を行う（お茶の水女子大学、早稲田大学）既存の日本語学テキストの内容調査言語教育の新しい潮流の調査❖ 留学生を対象とした授業を行っている大学における英語で書かれた日本語学のテキストの必要性を確認（特に学部生向けのテキストとして）。
展望：	<ul style="list-style-type: none">現在草稿を執筆中である。ある程度完成した時点で企画案を作成し出版社に打診草稿テキストをもとに実際に授業で使用し、学生の反応／フィードバックを見る（2015年8月以降）査読、改訂をへて2016年出版を目標とする